

田助愛 ～たすけあい～

令和7年6月23日 文責:野口

田助っ子の心を見つめる教育週間

先週は、本校の教育週間に、地域の方々、保護者、保育園、学校関係者など、多くの方々にご来校いただき子供たちの学校での様子を見ていただきました。保護者の皆様にはAED講習会にも多数参加していただき、大変充実した会になりました。ありがとうございました。道徳の授業参観では、子供たちが真剣に考える姿が印象的でした。全校朝会やなかよし集会では、校長が話をしました。どちらも「言葉の力」についての話でした。心を込めて話したつもりです。詳しい内容は以下をご一読ください。



「なかよし集会」の校長の話

今から20年ほど前になります。先生が担任した5年生の男の子の夏休みの自由研究は、今でも忘れられません。

二つのピンを準備して、その中にそれぞれ炊いたご飯を同じ量いれます。

一つ目のピンには、おはよう、ありがとう、がんばってね、おつかれさまなどの優しい言葉を毎日投げかけます。二つ目のピンには、良くない言葉、汚い言葉を毎日なげかけます。

すると夏休みが終わる頃に、そのお米はどうなったと思いますか？

一つ目のピンのお米は、少しカビが生えた程度でした。二つ目のピンのご飯は、見事にカビだらけで真っ黒になっていました。ちょっと信じられないような話ですが、ほんとうの話です。

言霊（ことだま）とは、言葉に宿る魂や力のことです。言葉に込められる魂のことを言います。言葉を発すると、その言葉には魂が宿り、良くも悪くも様々な効果が表れると古くから言われているのです。プラスの言葉を言えば、そこに魂が宿り、本当にあなたに力を与えてくれることもあります。しかし逆に、マイナスの言葉を言ってしまうと、その影響によって本当に不幸を招いてしまうこともあるのです。

言霊は恐ろしいとよく言われます。その理由は自分に返ってくることがあるからです。ポジティブな言葉の言霊であれば、恐れる必要はまったくないですね。しかしネガティブな言葉の言霊は、相手に言ったつもりなのに、相手を傷つけた上に、それが自分に返ってきてしまうことがあります。だから、優しい言葉を使うことは、自分を大切にすることにもつながるのです。

なかよしになるために、まず大切なことは「言葉」です。先生は田助小学校の子供たち全員が楽しく幸せな学校生活を送ってほしいと心から願っています。みなさんは全員優しい子ばかりです。田助小学校が優しい言葉、素敵な言霊であふれるよう願っています。

7月の主な行事予定

- 2日（水）七夕飾り作り交流（1～3年）地域の方々と一緒に作成
- 3日（木）～9日（水）学期末特別日課 全校14：50下校
- 18日（金）1学期終業式



第20回平戸市「少年の主張」大会

6月8日(日曜日)に、平戸市文化ホールで少年の主張大会が行われました。田助小学校からは、6年生の〇〇さんが代表として出場し、堂々とした見事な発表を行いました。「ありがとう」のたった5文字に込められた力。私の「言葉の力」の話とも通じるものがあると感じました。



感謝から考える世界平和

「ありがとう」みなさんは1日に何回「ありがとう」と言っていますか。私は、小さいときから両親に「ありがとうは必ず言いなさい」と言われてきたので、誰かに物をもらったときや何かをしてもらったときに自然と「ありがとう」と言って感謝の気持ちを伝えることが当たり前になっていました。しかし、年齢が上がってくると「まあいいか」という気持ちや「わかってくれるさ」という気持ちで言わないで済ませることがありました。その時は、自分の中で気持ちがモヤモヤし後悔しました。友達との関係もうましくないこともありました。反対に素直に「ありがとう」と言えた時には、お互い笑顔になり、いい関係を築けました。

「ありがとう」のたった5文字の言葉が人間関係を左右することに私はすごく魅力的な言葉だと思いました。「ありがとう」という言葉の魅力は何なのでしょう。

インターネットで調べてみると、某お菓子メーカーが全国の10代から50代の男女1000人にアンケートを取っているサイトを見つけました。アンケートによると、性別・年代別で見て最もありがとうを言っているのは20代女性で、平均11.6回でした。最下位は50代の男性で、平均は4.3回でした。年齢が上がると「ありがとう」を使う回数が減っているということがわかりました。他にも身近な人ほど「ありがとう」をうまく言えなくて、最も「ありがとう」を言えていない相手は親だということもわかりました。

日本には「ありがとう」という感謝の気持ちを伝える言葉がありますが、世界はどうでしょうか。思い浮かぶものとして「Thank you」「謝謝」「カムサハムニダ」のような言葉がほとんどの国に存在します。

「ありがとう」という言葉がない国もあります。そういった国は、直接的に「ありがとう」とは言いませんが、困った時に助け合う行動で感謝を表します。このように、言葉で感謝を表現しない代わりに、互いに助け合い、共同作業をすることで、感謝の気持ちを表す文化も存在します。

以上のことから、感謝の気持ちを身近な人に伝えることで、まわりの人が笑顔になり、楽しく、平和に暮らすことができるのではないかと思います。

世界の中では、今、まさに命の危機にさらされている人たちもいます。戦争や紛争が起こっている国や地域では、なかなか感謝の気持ちを表現できるような環境ではありません。

戦争や紛争を起こしている政治家のほとんどは、50代以上の大人です。そういった人たちは、感謝の気持ちが薄れていて、自分のことしか考えていない大人だと思います。うまく気持ちが伝えられず、力に頼ってしまうようでは、世界が良い方向には進みません。

世界中の人が平和に過ごすためには、私達のような子供が、感謝の気持ちを言葉や行動で表現していくことで、まわりの人々とのコミュニケーションを高め、より平和な関係を作ることができるのではないのでしょうか。

「ありがとう」は魔法の言葉です。言われたら気持ちが明るくなり、言った人も温かい気持ちになります。自分も他の人も幸せにできる言葉です。私はこれからも両親から教えてもらった「ありがとう」という感謝の言葉を自分に関わる様々な人に表現していきたいです。特に、私を産んで育ててくれた両親には多めに伝えていきたいと思います。

自分の身近な人、物事に「ありがたいな」「うれしいな」「恵まれているな」といった感謝の心をもって過ごすことを一人一人が実行していくことが世界平和に近づいていくのではないのでしょうか。大切にしたい「魔法の言葉」「平和の言葉」ありがとう。